

シャンティ山口 ニュースレター 第47号

発行：2005年10月10日/発行責任者：特定非営利活動法人シャンティ山口 代表 角 直 彦
連絡先事務局 〒753-0215 山口市大内矢田 717 佐伯昭夫 電話/Fax 083-927-4083
ホームページアドレス：<http://www.kvision.ne.jp/~shanti/>

シャンティ山口活動報告写真展 “笑顔をありがとう” 終了しました。

秋吉台フォトギャラリー「写創蔵」で37日間に亘り、開催した、報告会も、途中台風14号に見舞われましたが、この影響で、2日間閉館したもののそのほかは、無休の開館で、大盛況の内に終了しました。関係者の皆さん暑い中お疲れ様でした。

会員の皆様はもとより、全国各地から観光でお見えになり、立ち寄っていただいた多数の皆様から、激励のお言葉もいただきました。

おかげをもちまして、子ども達の笑顔や貧困に暮らす、村の様子を、皆さんにお知らせでき、「ほほえみ募金」・新入会員へ、繋ぐことができました。これからますますご理解いただけることを心からお待ちしています。

早速、現地の子供達に伝えて、子ども達の「ほほえみ」を、お返しのお礼にしたいと思っています。

シャンティ山口ホームページにも、ご案内していますが、その様子をごらん下さい。





ご来館者 1, 733名様 ほほえみ募金 80, 920円 クラフト販売金 194, 000円
でした。

なお、「写創蔵」でのクラフト販売は、オーナーのご理解と、ご配慮により、ボランティアで、当分の間継続することとなりました。

また、販売等に関して皆様の、ご意見や、アイデアをお聞かせ下さい。
今後とも、どうぞよろしくお願いたします。

皆様のお越しをお待ちしています。

～シャンティ山口も出店・お手伝い～

平成17年度

男女共同参画フォーラム in やまぐち

ともにひびきあおう”

シンホニア岩国で開催されました。

10月8日(土) 基調講演 「社会のエンジン、現代女性

～自己実現と制度改革を考える～ 講師 北村 節子 さん

10月9日(日) 特別講演 「これからの女と男のいい関係」

講師 樋口 恵子 さん

JICA 中国・(財)山口県国際交流協会・青年海外協力隊

山口県OB会の皆さんと、共同参画してきました。

様子をご覧ください。



平成17年度新規事業の実施始まる

平成17年度新規事業実施計画書

(050907)

シャンティ山口は、12年間に亘り奨学金の援助、学生寮運営事業を中心に山岳民族の保健衛生・農業など生活全般に亘って自立支援を行ってきた中、近年のタイにおける貨幣経済による生活の向上は著しく、貧困にあえぎ、とりのこされた山岳民族にとっては、学校を卒業しても地域での就職は困難で、ほとんどがバンコクなどの都会に出ているのが現状です。

そこで、これらの現状をふまえ、将来地域に定着し、巣立った子ども達が、奨学生や、この寮を支えていけるような、子ども達による起業の支援と共に職場の確保も念頭に置いた後継者育成プログラムを計画予算化しました。

当面は生活に密着した衛生推進事業として、「寮の便所の補修と共に生活排水処理システムを設置」し経費の節減と共に農業生産の向上と、地域の衛生環境を改善します。

この衛生推進事業を通じて現地スタッフ及び後継者の育成プログラムを実施します。

(1) 本事業実施に至った背景

平成11年度(1999年)から地域の保健所の協力を得て、保健衛生ワークショップ(国際ボランティア貯金配分事業)を6箇所の村で行った。

その中の一部で便所(手動水洗土壌分解式=タイ式)の設置指導も行った。

定住地として1976年開村した、セーンサイ村でトイレを作り使い始めたのは、村の支援のための幼稚園を開設し(1992年)タイ式のトイレを設置してからであり、その後、民家に普及し今から4年前、村の90%にトイレが行きわたった。

当初の民家のトイレは、素堀の穴の上に竹とカヤで作った蓋をかぶせたものだった、その後蓋は、コンクリートに変わった。(今も素堀りでコンクリート蓋のトイレは、村の20%の民家で使用している。)

ところが陥没・ガス爆発の事故が相次ぎタイ式のトイレに変わりつつある。

タイ式のトイレは、穴あきのコンクリート製の井側(今も、このタイプ)を設置し貯めるもので上部蓋の部分にメタンガスによる爆発を防ぐためのガス抜きがあり、溜まった糞尿の水分は、自然に地下浸透する。

新設された便所は、臭気もなく、動力も使わない土壌分解処理方式で、地域に適した便所でもあるが設置場所や経年使用により衛生面、環境面で極めて重要な問題が発生している。

便所は、用便後水溜めの水を手しゃくで汲み取り数回に渡り流す水洗式便所で糞尿溜めはコンクリート製の円形でまわりに数力所の穴が開けてあり、溜まった糞尿は、適当に溜め桝の外部へと浸透し、時間をかけて地下浸透し土壌の微生物により糞尿は分解していく仕組みとなっている。

この便所は、雨期になると地層、土質の影響もあり、地下浸透が緩慢となって便槽に雨水が流入し糞尿が地下水(飲料水用井戸)を汚染すると共に地上に溢れ出て、悪臭を放っている。

解消のため汲み取りもするが、追いつかず、汲み取り費用もかさむため仮溝を掘り低地に垂れ流しを余儀なくされている。

溢れる原因は、経年使用の目詰まりによる地下浸透阻害、設置場所の地層が粘土質などの水を通しにくい地層となっている、異物によりコンクリート穴が塞がっている等構造に起因するものである。

これにより寄生虫、はえ、蚊等が異常発生し付近の衛生環境が損なわれ、病原菌の繁殖を促し食生活、健康管理に悪影響をもたらして極めて劣悪な状況となっている。

(2) 事業の必要性・妥当性

これらを根本的に解消させ、より良い環境と衛生的で健康管理の継続ができるための便所を作りたいと考えていたところ、この便所の周りから雑草や作物が、勢いよく見事に生長している状況等から、かつて、日本で行われていた作物の肥やしとしての利用などのヒントを得た。

これが、より有効で衛生的な方法に改良できないかを、試行錯誤していた矢先、嫌気性処理について日本国内での実績があることを知り、既設の見学調査を実施した。(TSS 式)

土壌微生物による自然分解の原理など基本的には、タイ式と類似な方法であるが、土壌処理の前段で、大腸菌など人体に悪影響を及ぼす有害物を嫌気処理で死滅させた後に窒素、燐などの水質汚染を招く成分を植物に吸収させると共に、土壌の微生物による浄化処理を行うもので衛生的で、自然環境が保たれ維持管理もほとんど不要で、更に植物栽培などに利用できる装置である。

日本では、すでに公衆便所、山岳便所、キャンプ場、海水浴場、集会所、病院、個人住宅など多くの実績を有しており稼働も順調で好評である。

この装置では、材料、器具などはFRP等で製品化されたものが大半で国内では好評で、自然に優しいエコトイレとしてこれから急激な普及が予想されるが、途上国では、高価で現地には適さない。

これらの学術的基礎資料、実績データなどを参考に、安価で現地の気候風土に沿った地域独自のシステムをシャンティ学生寮をモデルケースとして、衛生環境の改善と農業への利用を中心に設置指導を兼ねたシステムを実践する。(将来的には、山岳民族の村を中心として地域環境の保全を目的として技術指導と設置の普及を計りたい。)

本計画のシステムは、自然素材を使用した独自のもので、国内は、もとより他に例はない。

また、この結果をモデルに、関わっている村や山岳地域の村落及び便所が普及していない地域全般に普及させ住民の健康管理と、省エネ及び地球環境保全に寄与したい。

妥当性

このシステムは、電気・動力など人工のエネルギーを必要としない。

浄化分解は、地域の土壌に生息する細菌類や微生物などの働きによるため薬注は行わない。

無放流のため滅菌も行わず、やむを得ず放流する場合トリハロメタンなどの有害物は生成しない。

家庭から大型排水施設、養豚場など、あらゆる処理に適しており、地形的条件や用地の確保ができないなどで、畑(土中浸潤発散装置)の設置が不可能な場合、処理液を運搬することにより、田畑の施肥や土壌改良材としても有効に使用できる。

また、有害な科学物質、重金属類や環境ホルモンなどの分解も可能なシステムでも。便所が普及していない地域にとっては、回虫や伝染病などの原因を絶つことができ生活衛生の安全と地域環境保全に有効である。

本年度から地球に優しいエコトイレの設置に取り組みます。

装置の名称 自然循環浄化システム(A Natural Circulation Purification System)

本トイレシステム（NCPシステム）の特徴

嫌気処理・浸潤発散装置及び農業利用。

期待できる効果

- ・汲み取りが不要になり維持管理及び費用がほとんどいなくなる。
- ・悪臭が無くなる。
- ・畑の作物に有効である。（肥料として使える・灌水が不要となる。）
- ・嫌気性処理により大腸菌など飲料に有害な細菌が生息しない。
- ・地下浸透しないのでこれによる水質汚染がない。
- ・動力などの人口エネルギーを使用しないので環境汚染がない。
- ・処理過程で薬注、滅菌など行わないので有害物質の生成がない。
- ・放流しないので河川、湖沼への水質悪化が防止できる。

事前調査の様子

